

平成30年度 長崎南高等学校 学校評価 総括評価表 (後期)

○ 教育方針	①真理と正義を求め、一意学問に精進する態度を養う。 ②すぐれた知性と実践力を養い、積極・創造の気概を振起する。 ③正しい判断力を育て、自主・自律の生活態度を確立する。 ④部活動を奨励し、明るく、たくましい心身を培う。 ⑤豊かな情操と強い連帯感を養い、奉仕する心を育てる。	《評価の基準》 4：十分達成できている (目標の8割以上が達成できている) 3：おおむね達成できている (目標の6割以上が達成できている) 2：どちらかという達成できていない (目標の3割以上が達成できている) 1：ほとんど達成できていない (目標の1割以下しか達成できていない)
○ 努力目標	①学校運営の充実 ②生徒指導の充実 ③教科指導の充実 ④保健・環境美化の充実	
○ 今年度の重点課題	①教科指導の充実 ②生徒指導の充実 ③進路指導の充実 ④部活動の充実 ⑤心の教育の充実 ⑥スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の充実	
		評価・・・上段H30年度 下段H29年度

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価	成 果 と 課 題
------	------	-----	-----------	-----	-----------

1 学校運営 全職員が共通の理念に立った学校運営を行うことによる教育成果の評価

(1)重点課題	重点課題の設定とその具現化	本校の実態に即した年度の重点課題を設定し、職員・生徒・保護者の理解に基づく教育活動を展開する。	①今日的教育課題と生徒の実態を踏まえた重点課題を設定する。 ②重点課題の具現化方策を校務分掌及び学年経営方針に盛り込み実践する。 ③生徒・保護者・地域等に教育方針や重点課題等を説明し理解を得る機会を設定する。	3.4 3.3 3.4 3.3 3.3 3.1	評価は上昇した。今後もPTA総会や入学式・卒業式での説明、南高だよりやホームページを通じての広報活動で、周知を図っていく必要がある。
(2)学年経営	学年目標の具現化	1学年 「自分を磨く！夢拓く南高生を目指して」を学年スローガンに ①豊かな感性を育む指導を充実させる ②自立した生活習慣を確立させる ③進路指導を充実させる 2学年 「Believe ～Team 57～」を学年スローガンに ①自ら品性を高める指導の充実 ②生徒指導及び生徒支援の充実 ③主体性を養う進路指導の充実を目指す。 3学年 「今、輝く56回生！」を学年スローガンに ①自己を大切に、逞しい生徒を育てる。 ②生徒指導及び生徒支援の充実を図る。 ③主体性を養う進路指導を充実させる。	①挨拶・学習・部活動・学校行事・学級活動・朝読・清掃活動に積極的に取り組ませる。 ②面談をとおして生徒理解を図り、基本的な生活習慣と計画性を持って行動する力を身につけさせる。 ③進路学習やSSH活動をとおして興味関心を広げ、主体的に進路開拓に向かう姿勢を身につけさせる。 ①部活動・学校行事・学級活動・学習による人間性の陶冶 ②規範意識を高める指導による社会性の育成 ③生徒自らが進路希望を主体的に開拓できる進路指導 ①受験・部活動・学校行事・学級活動をとおして人間性の陶冶を図る。 ②面談により生徒理解を深め、厚い信頼関係の下での支援を図る。 ③家庭学習3時間の確保をはじめ、主体的な学習に取り組ませる。	3.3 3.2 3.6 3.7 3.5 3.7 3.4 3.2 2.6	授業中の大きな声での挨拶は継続できた。新聞記事やSSHなど、進路学習は充実していた。新聞記事に関する活動は、生徒の興味関心の喚起・定着に役立っている。状況に応じた行動・気配りが次年度に向けての課題。 生徒へは、年度当初より「部活動への取り組み」と「品性を高める」の2点を強調し、学習への主体的な取り組みの向上を目論んだが、いずれも達成度は若干不十分であった。 先生方は、熱心に指導していただいた。上位者対策の体制作りと生徒の変化に即した指導をどのようにしていくかがこれからの課題である。

2 教育活動		教育全般における計画的・組織的な教育成果の評価			
(1)教育課程の編成	創意工夫を生かした教育課程の編成と実施	本校の実態に即した教育課程の編成に努める。	新学習指導要領の趣旨を踏まえ、学力向上と進路希望の実現に対応できる教育課程を編成する。	3.3 3.3	新学習指導要領の研究を行い、本校に最適な教育課程の編成に努めていきたい。
(2)学習・進路指導の編成					
①教科・進路指導	確かな学力を身につけさせる授業の実施と進路指導	国語科 学習指導の充実と国語力の向上に努める。	①授業担当者間の連携を密にし、授業の質を高める工夫を行う。 ②計画的に課題を与え、迅速に処理し、確実に仕上げるまで指導する。 ③学力向上に向けて数値目標を掲げ実現に向けて組織的に取り組む。	3.7 3.1 3.3	新課程対応を考えると、単位数増を検討しなければ対応できないという課題がある。
		地歴・公民科 個々の生徒に対応した学習指導の充実と学力向上に努める。	①教科担当者間の連携を密にし、授業の質を高めるように工夫する。 ②計画的に生徒の能力に応じた適切な課題を提供し、確実に仕上げるまで指導する。 ③主要な模擬試験等に数値目標を掲げ、目標達成にむけて教科をあげて取り組む。	2.8 3.7 3.2	
		数学科 学習指導の充実と授業力の向上に努める。	①教科担当者間の連携を密にし、授業の質を高める工夫を行う。 ②計画的に課題を与え、処理は迅速にし確実に仕上げるまで指導する。 ③主要な模試について数値目標を掲げ実現に向けて組織的に取り組む。 ④SSHの充実に向け、SSH研究開発部と協力しながら、生徒の実情に合ったカリキュラムの開発を進め、生徒の科学的な資質を高める。	3.9 3.0 3.6 2.1	
		理科 学習指導の充実と進路実績の向上に努める。	①教科担当者間の連携を密にし、ICTを活用するなど授業の質を高める工夫を行う。 ②計画的に課題を与え、処理は迅速にし、確実に仕上げるまで指導する。 ③主要な模試等について数値目標を掲げ、実現に向けて組織的に取り組む。 ④生徒の実情にあったストレI、II、IIIや課題研究の指導を通し、生徒の科学的見地を高める。	3.8 3.5 3.5 4.0	ICTを活用した授業の質の向上を今後も高める。課題の指導、模試の指導については、教科会での協議でより深め向上させる。ストレの課題研究指導はSSH研究開発部との連携を強め、より一層の科学的見地を高める。
		英語科 学習指導の充実に努める。実践的コミュニケーション能力の育成を図る。	①教科担当者間の連携を密にし、協働で授業の質を高める工夫を行う。 ②計画的かつ継続的に課題を与え、迅速に処理し、確実に仕上げるまで指導する。 ③主要な対外テストについて数値目標を掲げ、その達成に向けて授業担当者間の協働により取り組む。 ④コミュニケーション英語、英語表現の授業およびSSHトレーニングにおいて、実践的コミュニケーション能力を育成する。	3.9 3.6 3.9 3.7	(成果) 各学年で授業担当者が連携し、継続的かつ多面的な実践を通して、生徒の学力を高め、意欲を伸ばすことができた。 (課題) 現58回生への新テスト導入へ向けて、情報不足のため、十分な周知ができていない。
		保健体育科 学習指導の充実によってバランスのとれた体力づくりを目指す。	①教科担当者間の連携を密にし授業の質や緊張感を高める工夫を行う。 ②主運動前に補強運動・7分間走を実施し、体力の向上を図る。 ③受験(体育系)指導の充実。	3.9 3.7 3.8	集団の規律を重んじた授業を目標としつつ、運動を通して、心の健康も育んでいきたい。

		芸術科 学習指導の充実と感性豊かな人間性の育成に努める。	①授業に積極的に取り組ませ専門的に一定程度以上の能力を持たせる。 ②決められた期間内に課題(歌唱または器楽の実技試験・鑑賞の記録・作品の完成)ができるようにする。	3.0 3.9	
		家庭科 学習指導の充実と実生活への活用に努める。	①地域に根ざした実践的・体験的学習を取り入れることにより、家庭・家族と社会との関わりを理解させ、授業の質を高める。 ②実生活に即した教材を使い生活に必要な知識と技術を習得させる。 ③実習を伴う学習では、事前に目標を設定させ、目的意識を持たせる。実習後、レポートを書かせ、次の実習に生かせるようにする。 ④実技試験を多く取り入れ、技術習得の意欲を高める。 ⑤長期休業中に生活に関する課題を出し、各自の家庭生活や社会生活に関心を持たせる。	4 3 3 3 4	夏休みの課題を今年度から個人の課題研究であるホームプロジェクトに変更した。今年度の反省のもとにより効果的な実施の方法を考えていきたい。体験的な行事として3年生にマドレーヌを焼いて贈る活動や災害食の実習を始めた。今後消費者教育の充実を図っていきたい。
		情報科 情報に関する知識の習得と、情報技術・情報モラルの定着に努める	①授業の質や緊張感を高める工夫を行う(移動を早く、生徒の授業への集中度をあげる) ②知識の習得(デジタルの知識・アルゴリズムの理解習得・問題のモデル化とシミュレーションの学習、情報モラルマナーの理解定着) ③技能の習得(タッチタイピング習得・データベースの利用方法の学習)	3 3 3	1、電子黒板を利用する頻度を高め、生徒の理解が高まるように工夫した。 2、'タイピング'の技能が身につくよう練習の時間を確保した。 3、単位数が少ないが教科書が消化できるように授業を進めた。
	②特別活動	生徒活動の充実	生徒の自主的・自発的な活動の支援に努める	3.4 3.4	生徒たちが行事や委員会活動に積極的に取り組んだ。
	(3)SSH事業の推進	SSH事業の円滑な発達と事業内容の充実	①SSH事業の円滑な運営 ②研究開発の推進 ③研究成果の普及活動の充実	3.6 3.3 3.5 3.3 3.6 3.3	皆様のご協力ありがとうございました。どの学校も課題研究を行っている時代になりました。課題研究の指導について指導の参考になるツールを今後紹介していきたいと考えています。
	(4)生徒指導	品位ある南高生の育成と安全な教育環境の充実	①元気のよいあいさつとその場にふさわしい言動ができる ②整理整頓ができる ③身なりが整っている ④時間を守ることができる ⑤思いやりの心とたくましい心を身につけている	3.4 3.2 3.0 3.0 3.1 3.1 3.3 3.2 3.4 3.2 3.6 3.2	具体的な取組については概ね計画通り実施した。生徒指導だよりはメールメイトを活用して配付の連絡を行うなど、内容の周知を図った。 挨拶はどんな場面においても、気持ちのよい、元気の挨拶ができるよう、引き続き啓発に努めたい。 バスマナー指導や容儀指導についても生徒自身が心がけて行動できるようになるまで根気強く指導を続けていく。 ロッカー・机点検、容儀指導、清掃活動についてはあいさつ運動同様、風紀委員会や美化委員会が主体的な活動として計画・実施した。これらの取組が次年度以降も継続的に行われるよう引き続き生徒会と

					連携・協力していきたい。
(5)健康・安全指導	健康や安全に対する意識や態度の育成	本校の教育方針や重点項目にそって、健康・安全指導の充実に努める。	①自律的な生活習慣を確立させ、健康保持・増進を図らせる。 ②教育活動時の安全保持に努める。また、安全意識の涵養を図り、生命尊重の精神を高める。	3.1 3.2 3.4 3.4	・スコラ手帳の活用など、自己のスケジュール管理に努めさせた。
(6)心の教育	他者を思いやる心や命を大切に する態度の育成	教育活動全体の中で心の教育の充実に努める。	①支援部及び学年団や担任、保健室間の連携をさらに密にする。 ②スクールカウンセラーや外部機関等を積極的に活用し、予防に重点を置いた教育相談体制の充実に努める。	3.4 3.5 3.3 3.5	・DV防止・性教育などの講話を実施し、心の教育に努めた。 ・SCの活用は、計画的・継続的な実施が必要。
(7)部活動	部活動の活性化	1年次の全全部活制を生かし、個々の生徒の活動の継続に努める。	部活動の練習環境を充実させるとともに、練習時間と部室使用規定を遵守させ、「学習と部活動を両立」させる。	3.1 3.2	・部室使用指導(鍵の管理)が十分にできなかった
3 教育環境 学校の置かれている教育環境に関する教育成果の評価					
(1)施設・設備の管理	施設・設備の適切な管理に努め、維持補修、改修工事を計画的に実施する。	施設・設備の維持・補修と安全確保に努める。	①継続的な安全点検を実施し、危険防止に努める。 ②施設の維持補修及び改修工事を計画的に実施する。	3.4 3.3 3.4 3.3	・裏門と第2グラウンドの危険ブロック塀を撤去した。 ・弓道場やプール、空気設備等の改修を行い、施設の安全や機能維持に努めた。
(2)情報化推進	教育活動のIT化	IT関連の施設・設備の充実と教育活動分野への活用促進に努める。	①・情報機器等の充実した整備を行う ・校内LANの生徒への活用を推進する ②校務処理の効率化と職員のICT活用能力の向上に努める。	3.0 3.2 3.2 3.1	・情報機器の更新や校内LANの再整備を進める必要がある。 ・職員のICT活用能力は向上していると思われる。
4 開かれた学校 関連機関や団体との連携における教育成果の評価					
(1)保護者との連携	P T A活動の充実	P T A総会の盛会与P T A活動の活性化に努め、学校と家庭間の連絡を密にする。	①家庭と学校との緊密な連携を保つための情報発信をこまめに行う。 ②P T A総会の内容の工夫を行うなどで、出席率を向上させる。	3.2 3.1 3.2 3.2	P T Aの諸行事に多くの保護者に参加していただいた。今後も参加率向上に向けて内容の工夫を行いたい。
(2)地域や関係機関との連携	外部講師等の活用	外部講師の招聘による教育活動	同窓会や民間機関等の人材を有効に活用して、教育効果を高める。	3.3 3.3	地元文化について、知見を広めることができた。
5 生徒の教育成果 校訓の具現化～知育・徳育・体育の調和のとれた教育活動全般の評価					
(1)豊かな人間性	・理想は高く、気魄と情熱に燃える生徒の育成 ・親和と友愛に充ち、礼節を重んじる生徒の育成	学校への帰属意識を養うと共に、他者を思いやる心や奉仕する心を育てる。	①クラスや生徒会活動で、学校行事やボランティア活動に積極的に取り組ませる。 ②生徒会専門委員会や執行部の活動として、あいさつ運動やバスマナー指導を行い、品性のある生徒を育成する。	3.0 3.1 3.2 3.1	・ボランティア活動に取り組む機会が増やせればよいと思う。 ・バスマナー指導については、生徒会としての取り組みが十分ではなかった。
(2)学力の向上	・真理と正義を求め、一意学道に精進する態度を養う。 ・すぐれた知性と実践力を養い、積極・創造の気魄を振起す。	・入学後の導入をスムーズにし、基礎学力の向上を図る。 ・学習意欲を高める授業法を探究し、授業の質の向上を目指す。	①導入期の指導を計画的に実践し、高校生活へのスムーズな移行を実現し、基礎学力の向上を図る ②公開授業や研究授業を実施して教員の指導力向上を図る。 ③進路実現100%を目指す	3.2 3.2 3.3 3.3 3.5 3.5	6月7回、11月に13回の公開授業・研究授業を行った。授業研究の時間が十分に取れなかった。 面談や検討会を重ね、志望進路に沿った指導ができた。推薦指導についても多くの協力をいただき、例年並みの合格率を保った。
(3)健康や体力	健康で明朗、品位ある生徒の育成		①部活動を奨励し、生徒が部活動に参加することを通して、明るく、たくましい心身を培う。 ②行動体力を高めるとともに、防衛体力をつけ、病気やケガに強い身体作りを行う。	3.2 3.2 3.1 3.1	・全全部活動ではない2、3年生も部活動加入率が高いのはよい傾向だと思う。